

ゼミナール決定参考資料

教員名: 吉中 信人 指導教科: 刑事法

① 研究・関心領域内容

刑法(国際刑法、共犯論)、刑事訴訟法(日本の刑事司法論)、刑事政策・犯罪学(犯罪者の社会復帰論、高齢社会論、再犯防止法制等)、少年法(比較少年法)などを研究しています。最近は触法精神障害者の処遇と少年法が交錯する領域についても研究中です。来年度の授業は、刑法などを担当する予定です。

② 自己紹介<こんな学生を募集しています>

一に「やる気」、二に「学力」なのですが、最近どうもやる気のある学生さんが少なくなってきた印象があり、客観的な指標として二番目の比重が高くなってきました。ただ、ゼミは、学力向上だけでなく、自分の意見をしっかり相手に伝え、相手の意見をしっかり受け止めることを練習する場とも言えます。自分の意見やものの見方を一旦突き放して俯瞰できる人、既成の考え方にとらわれない自由な発想力を持つ人は大歓迎です。また、社会人としてのマナーなどについても、将来損をしないように指導します。

③ 現在の人数: 三年生 本年度募集停止 0 人 四年生 14 人

④ ゼミのテーマ、方針、学習・研究内容

・**テーマ:**刑事法の基本的論点について検討します。他大学とのゼミ交流会等で特にテーマが決められる場合、その準備をすることもあります。

・**方針:**どんな質問、意見でも良いので発言するように心がけてください。教員は私見を押しつけることはしないで、できるだけ交通整理を行います。

・**学習・研究内容:**刑事法分野であれば、実体法から手続法、事実学に至るまで何でもやります(指定テキストあり)。

⑤ 授業形態(発表、討論、講義など)

毎回個別の報告者がプレゼンを行い、それに対して全員で討論を行います。必要に応じてミニ講義も行いますが、できるだけ討論の時間を沢山取りたいと思っています。プレゼンテーション技術の向上を心がけます。

⑩ 最後にゼミのPRをお願いいたします!

夏休み中に行われる他大学とのゼミ交流会か、12月の司法修習生との模擬裁判への裁判員参加を必須としています(どちらかを選択)。また、半期に一度は、刑事施設や少年院等の施設見学を行い、皮膚感覚を重視した教育・指導を心がけています。ふだんのゼミでは、留学生や院生、研究生のゲストを迎えることもあり、幅広い視野を涵養しつつ、進んだ学説等にも目を向けて頂けるよう配慮しています。海外留学やロースクールを含む大学院進学を希望する方には、適切なガイダンスを行います。また、就職活動を重視し、的確なアドバイスをを行います。刑事法ということで、警察や法務省関係への就職者がほぼ毎年出ています。なお、このゼミは、第1,4タームです(第4タームについては、ゼミ交流会や模擬裁判への参加で配慮を検討することがある)。

⑥ 現在のゼミの様子、雰囲気

現在は、皆さん仲良く、且つ熱心にゼミの時間を楽しんでもらっていると(たぶん)思います。合同ゼミ合宿、模擬裁判などにも参加し、立派な報告をしています。

⑦ ゼミ生に希望すること

「出席」するだけでなく、「参加」すること。
他の人のどんな意見も尊重すること。あらかじめテーマについて予習してくること。論理的に話し、考える努力をすること。報告、連絡、相談すること。

⑧ 成績評価の方法

プレゼン(レジュメ含)の内容、毎回の討論の参加度、ゼミ行事(飲みや遊び等は除く)の参加度、レポート等を総合して決定する。

⑨ ゼミ生の選考方法

面接は行いません。ゼミ参加希望者が10名を超える場合は、成績によって客観的に判断します。